

国語教育

第115号

令和6年3月
都小国研多摩地区研究会事務局

「言葉による見方・考え方」を働かせる学びとは

都小国研多摩地区研究会 副会長 薄井 智美
(町田市立町田第六小学校校長)

多摩地区研究会では、昨年度児童が自らの学習を振り返り、自らの力を自覚することで言葉への自覚を促し、自分の学習を調整してさらによりよくなるようとする態度を育てるための研究を深めることができました。国語科においては「言葉による見方・考え方」を働かせる学びをつくるのが、目指す資質・能力をよりよく身に付けることにつながります。今年度は、東京都小学校国語教育研究会の新たな研究主題「他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語教育」、研究副主題『「言葉による見方・考え方」を働かせる学びをつくる』を受けて、本研究会も今年度の研究を深めてまいりました。

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」について部会ごとにテーマを設定して研究を進めました。

5月には研究総会を開催しました。青梅市立第二小学校を会場とし、東京都小学校国語教育研究会前会長の加賀田真理先生をお迎えしてご講演いただきました。また、10月に実施した多摩まなび塾は府中市立府中第二小学校において、土曜日にもかかわらず多くの先生方が参加してくださいました。ワークショップ形式を取り入れた講座では、受講生同士が互いに意見を交わすうちに、国語の学びが深まりました。講師の先生方から授業のヒントを数多くいただき、早速実践しようと皆さんが意欲的でした。さらに、12月から2月にかけて、各部会の研究発表会を開催いたしました。今年度の研究では「言葉による見方・考え方」について考えました。子供たちの主体的な学びをつくる国語の授業を創造するために、各部会で議論を重ねました。講師の先生方からは、他者と協働し、豊かな言語生活を実現するためについてのご示唆をいただきました。児童が対話し、自分の考えを伝え合うことを通して、協働的な学びが生まれ、新たな発見や気づきが出てきます。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」それぞれの部会で、言葉を通して理解し、表現することが、児童の資質・能力の向上につながることを実感できました。

各部会ともに今年度新たな部員を迎え、国語教育について研究できたことをうれしく思います。校務で忙しい中でも、自己研鑽を積むため、よりよい授業づくりのために参集し、議論できたことは、会員にとって何よりの力となりました。本紙をお読みいただいた方々は、ぜひ各部の取組を参考になさってください。なお、研究発表会で提案した学習指導案やワークシート等を東京都小学校国語教育研究会ホームページに掲載しています。より多くの先生方に活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、今年度、各研究部の研究に際し、指導・講評をいただいた講師の皆様、部員の研究会参加にご配慮いただきました所属校の校長先生、およびご協力いただいた研究会会場校の校長先生をはじめとする教職員の皆様に心よりお礼申し上げます。

主体的に話し、自己充実を目指す児童を育成する単元づくり

【話すこと・聞くこと部】

単元名 「効果的に資料を使って、心に残るスピーチをしよう」
 ～届けよう、未来を見つめるメッセージ～
 学習材 「今、私は、ぼくは」(光村図書 6年)
 授業者 小平市立小平第八小学校 森永 佳代 主幹教諭
 講師 東京都小学校国語教育研究会顧問 邑上 裕子 先生

6年生が卒業前に取り組む単元として、これまでに学んだことを生かしながらか構成や話し方を工夫し、効果的に資料を示してスピーチを行う活動を設定した。話すこと・聞くことの既習事項確認表を単元の初めに提示することで、児童が身に付けてきた力を自覚するとともに、この単元で付けたい力を意識できるようにした。また、各時間の活動やめあてを焦点化して提示することや、スピーチの内容を検討する段階からグループでの交流を意図的に行うことを通して、友達のアドバイスを生かしながらか自分の伝えたいことについて深く考え、聞き手の心に残るスピーチを目指して粘り強く取り組めるよう指導計画を工夫した。

当日の授業では、三人組になり、自分の作ったスピーチメモと資料を友達に見せながら、できているところまでのスピーチを行い、友達からアドバイスをもらう活動を行った。相談したいことをあらかじめ友達に伝えることで焦点を絞った交流となり、それをもとにスピーチや資料をよりよくしようとする児童の姿が見られた。講師の邑上先生からは、「児童自身が『言葉の働き』(見方・考え方)に着目できるよう工夫した取組であった。三人でひとつのスピーチを作り上げようという声掛けで児童同士が関わり合う必要性が生まれ、よりよいスピーチにしようとする前向きに伝え合っていた。関わり合っている姿を次時にも生かし、指導と評価の一体化を図ることが大切である」とご指導いただいた。(文責 田中 史子)

【書くこと部】

児童の深い学びを目指す、主体的・対話的な書くことの単元づくり

単元名 「まとまりに分けて、お話を書こう」
 ～人形でのやり取りを生かして、楽しんで作ろう～
 学習材 「おはなしの作者になろう」(光村図書 2年下)
 授業者 府中市立府中第六小学校 木村 千恵 主任教諭
 講師 東京都小学校国語教育研究会顧問 成家 亘宏 先生

2年生の児童が、自分の思いや考えを明確にして、事柄の順序に沿った簡単な構成を考えて書くことができるように単元を構成した。自分だけの物語へ愛着をもたせるために、物語に登場する人物の人形を図工の時間に粘土で作成した。さらに「はじめ」と「おわり」の場面絵は限定し、「中」の場面絵を「空・野原・土・海」という4種類から選択させた。「はじめ」と「おわり」の場面絵を限定することで、児童は、初めての創作文の学習でも、「できそう」という安心感をもって取り組むことができた。また、「中」を自ら選択させることで、想像を広げ、話の展開を考えやすくすることができた。「登場人物シート」「組み立てシート」「記述シート」などの多様なワークシートも、児童の取り組みやすさを支えた。当日の授業では、人形と場面絵を使用しながらペアでやり取りすることで、出来事や登場人物の行動、会話を詳しく想像することができた。自分たちの考えた世界で、楽しく話を展開する児童の姿が見られた。

研究協議では、「低学年の児童が想像を膨らませられるように学習過程を組んでいること」や「ペア活動をよりよくするために、活動の間に自分で考える時間を確保すること」などについて意見が出た。講師の成家先生からは、構成についてのご指導や学習進度は児童に合わせることで、やり取りの後にどの言葉がよかったか児童に尋ね次の活動につなげることなど、ご教授いただいた。(文責 三道博子)

【読むこと部】

自立した学習者を育てる読むことの指導

単元名 「事例と意見の関係に気を付けて読もう」
 ～筆者からのメッセージを受け取ろう～
 学習材 「想像力のスイッチを入れよう」(光村図書 5年)
 授業者 立川市立若葉台小学校 浅野 剛基 主任教諭
 講師 東京都小学校国語教育研究会顧問 井出 一雄 先生

説明的文章で培ってきた読む力や言葉による見方・考え方を活用して、児童が自分で学習を進めることができる単元展開に重点をおいて研究を進めた。本単元では、児童が学習材と初めて向き合ったときに感じる疑問や解決したい課題を大切に、想像力のスイッチの意味や筆者が読み手に伝えたいことを確かめながら要旨を捉え、自分の生活と結び付けて考えをもつことを学級全体のゴールとした。本単元では、児童自身の力で学ぶために、既習事項(学習内容・学習方法等)を具体化したものを手引きとし、必要に応じて確認しながら学習計画を立て、自分で決めた学習内容や学習方法に基づいて学習材を読み進めた。

当日の授業では、手引きを確かめながら学習材を読み、要旨を捉えるために必要な学習内容や方法を自分で計画を立てた。研究協議では、主体的に学習している場における教師の効果的な指導の在り方等について話し合った。講師の井出先生からは、要旨の把握には、事実と意見の関係を押さえ、文章全体の構成を捉えることが重要であることをご指導いただいた。また主体的な学習者を育てるには、状況に応じて教師が学級全体に効果的な指導を行うこと、指導内容を吟味すること、複数の友達と少人数による交流を繰り返す、考えの深化につなげること等についてもご指導いただいた。(文責 田中 静香)